

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|--|--|----------------|--|
| 1 | <p>市内に住んでいる人間として深刻な問題だと感じます。統計調査などでも示す様に教育、教養娯楽など数値が低いものや住宅家賃の引き下げ（住宅手当）などを直ぐに取り掛かるのが賢明だと思う。</p> <p>また、施策などが多く挙げられているが、バランス良く成果は上げる事は不可能なので施策を絞って取り掛かる方が良い。</p> | <p>教育、教養娯楽に関しては、引き続き、児童生徒が「確かな学力」を身に付けるための教育環境を充実する取組みを進めます。</p> <p>また、特に若い世代を意識した中で、「選ばれるまちになる」ことテーマに掲げて6つの重点プロジェクトに取り組んでいます。そのプロジェクトのひとつとして、若者が楽しめ、活躍できるまちにする「長崎×若者プロジェクト」に取り組めます。さらに、住まいに関して、若者や子育て世帯が住みやすいまちにする「住みよかプロジェクト」に取り組めます。</p> <p>なお、長崎市の人口減少の要因は、若い世代の転出超過とそれに伴う出生数の減少であることから、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」をめざすべき姿として掲げて、「社会減・自然減の両面で人口の減り方をおさえる」「人口が減っても暮らしやすいまちにする」「交流人口を増やす」という考え方を基本として、施策を重点化し推進していくこととしています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 2 | <p>SDGsへの取組みを考えているが直ぐに目標を絞って進める事。私感では、“働きがいも経済成長も”と“住み続けられるまちづくりを”だと考える。北陸地方の街などは常に住みよさランキングで上位に入っているの、そういう街も調査しながら取り組んで欲しい。産学官の意見も良いが、地域住民の意見も定期的に取り入れた方が理想より現実に結びつき易い。</p> | <p>第2期総合戦略の推進において、あらゆる主体と協働しながら事業を進めていく際、SDGsの目標への貢献についても、しっかりと意識しながら進捗を図っていきたくと考えています。</p> <p>また、定期的な地域住民の意見聴取に関しては、まずは、長崎市よかまちづくり基本条例の基本原則である情報共有をはかることとしており、広報誌・WEB・SNSによる情報発信、出前講座等を活用し取組みの周知を図るとともに、さらに市民意識調査を実施しているので、その中で地域住民のニーズを収集・分析して施策・事業を展開したいと考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 3 | <p>今回の戦略で将来展望として「人口減少の歯止めのためにはライフステージごとに長崎市が若い世代に選ばれるまち」としているが、高齢者も含めた全市民が住みやすいまちを目指すべきで「ライフステージごと」の表現があいまいです。</p> | <p>長崎市の人口減少の主な要因は、若い世代の転出超過とそれに伴う出生数の減少であることから、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」をめざすべき姿として掲げて取組みを進めています。その際「進学」「就職」「結婚」「子育て」などの人生の節目、いわゆるライフステージごとに施策を展開していくこととしています。その中では、人口が緩やかに減った中でも、高齢者を含めた誰もが暮らしやすいまちをめざす考え方も踏まえ推進していくこととしています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、内容の修正はしていませんが、今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| 4 | <p>基本姿勢の2番目に「人口減があっても暮らしやすいまちにする」とあるが、人口減の克服が最大の目標とするのなら違和感があります。</p> | <p>長期人口ビジョンにおいて、現在の約41万人から、2060年に約31万人の人口を維持することをめざしていますが、国全体の人口の減少が見込まれる中で、長崎市においても人口減少は避けられないものと考えています。その際、人口減少のスピードをいかに緩やかにしていくかという観点と、減った中でも暮らしやすいまちをつくるという観点が重要であると認識しています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、内容の修正はしていませんが、今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| 5 | <p>「地域力でまちづくりを進める」として自治会など地域団体の活性化と連携の促進」とあるが、現在の自治会の疲弊を見た時、市の本気の対策が必要だと思います。</p> | <p>人口減少や少子化、高齢化が進んでも、自治会が地域コミュニティの核であることに変わりはなく、「暮らしやすいまちをつくる」ために「地域コミュニティを支えるしくみ」として、今後とも自治会への支援を継続して実施していくほか、地域コミュニティ連絡協議会の設立支援を行っています。その際、まちづくりを支援する職員を配置するなど地域と協働したまちづくりを進めているところです。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|--|---|---|---|
| 6 | <p>「コンパクトで暮らしやすいまちにする」は一步まちがえば、中心部は活性化しても合併地区などは切り捨てられ、市の分断になりかねないと思います。</p> | <p>長崎市では、行政課題を身近な場所でスピーディーに解決するための仕組みとして行政サテライト機能の再編成を行うとともに、人々の生活の場である身近なコミュニティが活力を高めて生き生きと機能していけるよう、地域内の各種団体が有機的に連携できる地域コミュニティの仕組みを整える取り組みを進めています。 その際、総合事務所、地域センター、本庁が連携をとりながら、住民が自分たちの地域に必要なことを自分たちで決め実行する地域自治の支援を行うこととしています。 また、平成28年12月に都市計画マスタープランを改訂し、「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」を目指す姿に掲げ、市民がどこに住んでいても、地域の特性に応じて、一定の暮らしやすさを維持しようとしています。このまちづくりを実現していくため、平成30年4月に立地適正化計画を策定し、都市や地域の暮らしに必要な施設を維持し、地域をつなぐ公共交通などネットワークの維持・確保に努めることで、これからも、長崎市全体の暮らしやすさを守っていく考えです。 このように、ハード、ソフト両面から取り組みを進めていくこととしています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 7 | <p>「コミュニティの存続規範」を市民に定着させる ① 本戦略案に述べられてる様々な計画の実施において根底に置くべきは「長崎市というコミュニティの存続規範」である。これは倫理や風土の範疇であるが、まちの存続には重要である。具体的には「このまちを存続させるためには、お互いに依存関係にあることを認識してこのまちで生きていこう」ということである。 ② これは郷土愛や隣人愛という倫理の範疇であるので、行政からの指示には相応しくないが、このようなことが生まれる風土づくりや意識改革を進める必要がある。 (例：「◎◎LOVERS」運動や地域コミュニティ協議会にはそのような一面がある) ③ 現在、居住している市民が「このまちにいて楽しい」、「このまちに住んでいて良かった」、あるいは「このまちには問題もあるが、それは他の要素でカバーできる」、「問題はあるが、いずれ解決される期待ができる」と思うことが必須。そのようなことを思わせるまちの雰囲気であるかということも「コミュニティの存続規範」のひとつである。 (住んでいる人がそのように思わないと、他からの移住はできない) 本戦略の実施にあたっては、市民・企業・行政共に上記のような意識改革が必要だと考える。 このことが根底にあるかどうかは実施の成否に関わると考える。</p> | <p>「自分たちのまちは自分たちでよくする」というまちづくりの根底にあるものは、「ふるさと長崎を愛する」という市民一人ひとりの思いであると考えています。 人口減少や少子化、高齢化が進む中で、住民の皆さんが自分たちの地域に必要なことを自分たちが決めて実行する地域自治によるまちづくりを進めていくためには、その思いを醸成していくことはさらに重要と考えています。そのようなことから、長崎を愛するという市民意識の醸成や将来のまちづくりの人材となる子どもたちの育成に取り組んでいます。 これからも、ふるさと長崎を愛する心の意識の醸成を図っていききたいと思います。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 8 | <p>基本的な考え方 (41～42ページ) ① 本戦略の目標は、長崎市における人口減少の克服と地域活力の向上であるが、これまで長崎市を形成してきた基盤産業（造船、観光、漁業）拡大下での制度設計による従来の政策やまちのかたちの変革が必要であることを述べ、同時に新しい制度設計の基本的な考え方を述べておくべき。 ② SDGsの理念をふまえることについては、基本的な考え方に位置づけておくこと。具体的には41ページの「基本姿勢」の中で述べる。 (本戦略の最終ページに、長崎市の各実施施策がSDGsにおける17の目標のどれに対応するかの一覧表を示して欲しい)</p> | <p>経済のグローバル化や環境への配慮、さらには、情報系技術の進化など、世界の大きな変化への対応が求められており、長崎市の産業も例外ではありません。 市内の企業においても、産業間の連携によって生産性を高めようとする動きやAIなどの新技術や新しい発想によって新製品、新産業を生み出そうとする動きが生まれてきています。 こういった動きと連携を図りながら行政でしかできない役割をしっかりと果たしていく考えです。 なお、第2期総合戦略においては、SDGsの理念を踏まえて施策を展開していきたいと考えています。</p> | <p>・基本姿勢に、「長崎の産業動向」「人口減少社会における基本認識」を追記しました。</p> | |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|---|---|--|--|
| 9 | <p>推進体制（40ページ）</p> <p>① 全部署横通しで実施すること すべての部署で何らかの関係があるはず。 （例として商工部であれば企業誘致、起業支援、子育て世代にやさしい商店や商店街のあり方など）</p> <p>② 各部署の施策間で矛盾が生じた場合は、創生推進室で調整する。</p> | <p>人口減少対策・地方創生の推進にあたっては、産学官金労言士のオール長崎市で目標達成に向けた様々な観点からの取り組みを推進していくこととしています。</p> <p>その際、長崎市の人口減少対策の推進体制として、個々の施策を相互に関連させながら、関係部局の緊密な連携・協力を確保し、総合的かつ効果的な施策を推進することを目的として、「長崎市人口減少対策推進本部」を設置し、部局横断的に施策の推進を図っています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 10 | <p>第1期の検証（40～41ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施策の効果は一定現れているものの人口減少に歯止めがかかっていない状況にある」と述べられており、これはその通りであるが、その原因分析を行っているのか？（PDCAの「C」） ・何故、歯止めがかからなかったのかの原因がはっきりした上で第2期の施策が立案されるべきではないか。（PDCAの「A」） ・この戦略案では、それらが明記されておらず、第2期の計画に説得力が感じられない。 | <p>人口ビジョンにおいて、人口の社会動態・自然動態の状況、他地域との比較による産業や生活の状況の客観的データと結婚・妊娠・出産・子育てと転出者に関する意識調査などにより、要因分析を行っています。</p> <p>人口減少の要因は、若い世代の転出超過とそれに伴う出生数の減少ですが、若い世代に魅力ある仕事、学び・楽しむ場の充実や子育て環境の充実等につながる施策を総合戦略において4つの目標に体系化して進めていくこととしています。</p> <p>また、令和元年に過去5年間の移動者動向調査を実施したところであり、その結果の概要を人口ビジョンに追加しています。</p> | <p>移動者動向調査結果の概要について、人口ビジョンに追加しました。</p> | |
| 11 | <p>第2期計画について（41ページ以降）</p> <p>次の2つにわけて記載していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期で実施した項目の補充（上記のPDCAの「A」） ・その後の検討などで立案された新規の項目 | <p>個々の具体的取り組みの冒頭に、新たに取り組むもの、拡大して取り組むものは「●」、既に取り組んでいるものは「○」を付記することで区別をしています。</p> <p>なお、「○」については、事業の効果を検証し、継続的な改善を図りながら取り組みを進めています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| 12 | <p>本案ではいろんなプロジェクトが総花的に記載されているが、それぞれがどのような効果を生み出すのか不明。そこを明確にしておかないと説得力がない。</p> | <p>長崎市の人口減少の要因は、若い世代の転出超過とそれに伴う出生数の減少であることから、第2期総合戦略において、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」をめざすべき姿として掲げて、「社会減・自然減の両面で人口の減り方をおさえる」「人口が減っても暮らしやすいまちにする」「交流人口を増やす」という考え方を基本として、施策を重点化し推進していくこととしています。</p> <p>なお、人口ビジョンにおいて、将来人口の目標とそれを実現するための合計特殊出生率及び社会動態を掲げるとともに、総合戦略においては、4つの目標ごとに数値目標を明示し、その達成に向けた施策ごとの重要業績評価指標（KPI）を掲げて進捗状況を明確にしながらか進めていくこととしています。</p> <p>したがって、すべての取組みが人口減少克服につながってくるものとなります。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|---|---|----------------|---|
| 13 | <p>基本目標について(43~44ページ)</p> <p>① 3つの基本目標と特定目標に分かれているが、「交流の産業化」を「基本目標4」ではなく「特定目標」としているのか。これら4つは、優先度や重要性は同じに扱う。</p> <p>② 4つの目標(3つの基本目標と特定目標)は、それぞれ独立したものではなく、相互に関係があるはず。</p> <p>③ 基本目標2には、子育て環境の充実など従来以上に費用が必要になるので、基本目標1と特定目標から生み出される収益を投入することも必要。</p> | <p>基本目標については、国の総合戦略も参考にして、体系化を図っていますが、特定目標については、交流によって栄えたまちである長崎市独自の目標として設定しているところでは、</p> <p>総合戦略は、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」をめざすべき姿として掲げて、「社会減・自然減の両面で人口の減り方をおさえる」「人口が減っても暮らしやすいまちにする」「交流人口を増やす」という考え方を基本に組み立てていますので、4つの目標は、相互に関係があり、また、優先度や重要性も同列であると考えています。</p> <p>人口減少対策と地方創生については、市政運営の最重要項目ですので、国県等の財源や制度を十分に活用しながら、重点的に予算を配分するとともに、「産学官金労言士」(産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア、土業)及び市民のオール長崎市で推進していきたいと考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりに、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 14 | <p>「基本目標2：子どもをみんな育てる 子育てしやすいまちをつくる」について(59ページ)</p> <p>① 地域、商店街、職場での応援ということが必要で、これは「子育ての負担軽減」にあるが、それとは別に「おせっかいな地域、商店街、職場」という風土を醸成する施策も設定願いたい。(上記のコミュニティの存続規範にも含まれること)</p> <p>② 子連れ出勤が出来るように企業に託児スペース、授乳時間の配慮などを実現できるように働きかけることを施策に追加(この点は企業によっては困難な事情もあるが、複数企業による託児スペースの共同運営や行政からの資金面の補助など必要であり、企業への要請も行うべき)</p> | <p>1点目については、地域や商店街、子育てを支援する団体の参画により、まち全体で子育てを支援する仕組みを検討することとしていますが、併せて、地域の各種団体の連携を促すことや積極的にまちづくりに関わる人材の育成及びふるさと長崎を愛する心の醸成を図っていくこととしています。</p> <p>なお、2点目の企業に対し託児スペースや授乳時間の配慮を直接要請することは、業績、規模など企業の状況も様々であることから現状難しいと考えています。しかしながら、子育てしやすいまちづくりは、行政のみならず企業にも取り組んでいただく必要があることから、ワーク・ライフ・バランスに関連する情報や、女性活躍推進に関する取組みが優良な企業を国が認定する「えるぼし」の取得企業をホームページで紹介するなど、働きやすい職場環境に関する情報を広く発信し、周知啓発に努めています。</p> <p>人口減少対策と地方創生については、「産学官金労言士」(産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア、土業)及び市民のオール長崎市で推進していきたいと考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりに、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| 15 | <p>「基本目標3 「まちのかたち」と「まちを支えるしくみ」をつくる」について(74ページ)</p> <p>① 「コンパクトで暮らしやすいまちをつくる」については、しくみだけではなく、物理的な居住地の縮め方をどのように実現するのかの検討が必要ではないのか。</p> <p>② 今後は独居高齢者、子どもの見守り、そして買い物難民支援などに向けたICTネットワークの普及が必要不可欠であるが、これについての計画がない。(情報ネットワークの整備促進とあるが、そのようなひとこと語れるものではないと思う。)</p> <p>③ 医療については遠隔でのICT活用による受診も可能とすることが必要。</p> | <p>人口が減少する中でも暮らしやすいまちであり続けるため、商業、医療、福祉等の都市機能や居住機能を適切に集積させることで、持続可能な都市構造の実現を図る考えです。その際、都市基盤の整備状況や土地利用の動向を勘案した上で都市計画制度に基づく土地利用規制の緩和や、立地適正化計画に基づく支援制度の活用などの検討を進めていきます。</p> <p>さらに、都市機能が集まった拠点と周辺的生活地区の間で公共交通等によるネットワークの形成を併せて進めます。</p> <p>また、近年の立地企業の中には、社会課題の解決に知見を有する企業があります。そこで、人口減少が著しい長崎地域を実証フィールドとして、地元企業や地元大学が協働して社会課題の解決手法を模索し、解決策を構築していくことができれば、新産業のプラットフォームとなることで期待されますので、光回線による情報ネットワークの拡充とあわせて進めていく考えです。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりに、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|---|--|------------------------------------|--|
| 16 | <p>重点プロジェクト(45ページ)</p> <p>① これらのプロジェクトについての説明が必要。何をねらって、どのような実施計画であるのかの記載がない。これは内容まで記載をお願いしたい。</p> <p>② 「長崎スタジアムシティ構想」が、この重点プロジェクトに記載されていないのは何故?</p> <p>③ これらの全部で9つのプロジェクトはマトリックスで分類して、その位置付けを明確していただきたい。</p> | <p>重点プロジェクトは、特に若い世代を意識した中で、「選ばれるまちになる」ことをテーマに掲げるとともに「次の時代の長崎の基盤づくり」を更に進め、仕上げていくため、長崎市を中心に取り組むものです。</p> <p>ご意見にある長崎スタジアムシティプロジェクトは、民間主導による地方創生のモデルとなる先進的な取り組みであり、基本姿勢における「交流都市としての成長の可能性」の項で、大きな動きとして掲げるとともに、民間のプロジェクトとして明確に位置づけています。</p> | <p>各重点プロジェクトの目的及び主な取組みを追記しました。</p> | |
| 17 | <p>農林水産業について(52ページ)</p> <p>農林水産業の生産性向上、それを支える人材確保と育成、またこのジャンルにおける新規事業の立ち上げは、これだけで一大プロジェクトであると考えられる。記載された具体的な事業の中にそれに該当するプロジェクトはあるのか?</p> | <p>先端技術や未利用資産を活用したスマート農業、スマート水産業の取り組みなどを進めることで、生産性向上を図っていきたくと考えています。</p> <p>併せて、農林業に関しては、初期の経営及び施設整備等投資に係る支援、経営確立に係るサポート体制の充実などを進めるとともに、水産業に関しては、就業を希望する者の受入先確保と広域的な受入体制の整備、研修期間及び着業後の経済的支援を進めることで人材確保と育成に努めていきます。</p> <p>また、新規事業に関しては、長崎市の農林水産業の実情を踏まえ展開していく必要があると考えていますが、その際、関係団体のご協力が特に重要であると考えています。令和2年度に、「農業振興計画」「水産振興計画」の改訂を行いますが、総合戦略の考えも踏まえ、新規事業の立ち上げも視野に入れた今後の振興策についてより具体的な検討を進める考えです。</p> <p>人口減少対策と地方創生については、「産学官金労言士」(産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア、土業)及び市民のオール長崎市で推進していきたいと考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 18 | <p>造船業について</p> <p>本戦略案には「造船業」の記載はないが、これまで長崎市を支えてきた造船技術の設備や人材の活用は重要。</p> <p>① 三菱重工香焼工場は他造船会社に売却されるとの計画であり、それによって造船業従事者が増える可能性がある。そのような人たちへの支援などは必要。</p> <p>② 造船業自体は縮小していく傾向にあるが、その技術を活用していかにかに新たな産業を起して、人口増や若者の定着につなげていくかは、人口減対策として有効である。これを受け持つプロジェクトはあるのか?</p> | <p>経済のグローバル化や環境への配慮、さらには、情報系技術の進化など、世界の大きな変化への対応が求められており、長崎市の産業も例外ではありません。</p> <p>市内の企業においても、産業間の連携によって生産性を高めようとする動きやAIなどの新技術や新しい発想によって新製品、新産業を生み出そうとする動きが生まれてきています。</p> <p>また、これまで培ってきた造船分野における技術の活用に関して、海洋再生可能エネルギーやクルーズ船修繕事業などのプロジェクトに取り組まれておりますので、長崎県や関係機関、市内企業と連携して、行政でしかできない役割をしっかりと果たしていく考えです。</p> <p>人口減少対策については、「産学官金労言士」(産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア、土業)及び市民のオール長崎市で推進していく必要があると考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|---|---|---|---|
| 19 | <p>新たな基本目標の提案 新たな基本目標として「誰もが住みやすいまち、多様性が受け入れられるまち」を設定していただきたい。 ① 同性パートナーシップ制度の進化 長崎市では令和1年9月より「同性パートナーシップ宣誓制度」が導入されたが、これを一歩進めて「法的効力のある制度」にしていただきたい。(東京都渋谷区と同様のもの) ② 多様性を受け入れるまち 上記以外にもあらゆる障害や病気などであっても安心して生きていけるまちであるための課題解決プロジェクトを設置する必要がある。</p> <p>これらにより誰もが安心して、住みやすいまちをつくることができ、「選ばれるまち」になる。</p> | <p>基本目標については、国の総合戦略も参考にして、体系化を図っていますが、特定目標については、交流によって栄えたまちである長崎市独自の目標として設定しているところではあります。 総合戦略は、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」をめざすべき姿として掲げて、「社会減・自然減の両面で人口の減り方をおさえる」「人口が減っても暮らしやすいまちにする」「交流人口を増やす」という考え方を基本に組み立てていますので、4つの目標は、相互に関係があり、また、優先度や重要性も同列であると考えています。 なお、長崎市においては、まずは性的少数者に対する市民の理解を十分に得る必要があること、条例の制定にあたっては国の動向を踏まえながら今後の変化に柔軟に対応していく必要があることから、先行して制度導入を進め、事務手続きを要綱で定めています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりの、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |
| 20 | <p>戦略案全体へのコメント ① 本戦略案全90ページは市民にとっては難しい用語とまわりくどい表現で解説に時間がかかる。 本論とは別に概要版を作製していただき、それを読むことで全体を把握し、そこで疑問を感じたことや意見を付したいことがあれば、本論を読むという方式にしていただきたい。 幅広く市民からの意見を求めるなら、そのような工夫や配慮が必要である。 ② 本資料は「データ→計画」という構成であるが、データをもとにした「戦略」及び第1期のふりかえりが記載されていない。</p> | <p>総合戦略は、「産学官金労言士」(産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア、土業)及び市民のオール長崎市で推進していくものですので、考え方やポイントをわかりやすく伝えることが出来るよう概要版を作成したいと考えています。 第2期総合戦略については、人口動向等の各種データ、アンケート調査、第1期の検証を踏まえて組み立てています。</p> | <p>人口減少の現状を追記するとともに、第1期の取組みの成果と課題、それを受けて、第2期総合戦略が組み立てられていることが明確になるよう修正しました。</p> | |
| 21 | <p>p42めざすべき姿に「若い世代に選ばれる魅力的なまち」とありますが、「若い世代」及び「若者」の定義を教えてください。</p> | <p>第2期総合戦略では、転出超過の中心となっている、18歳から39歳の若い世代をターゲットとしています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりのです。</p> |
| 22 | <p>「若い世代」の定義を前提とし、若い世代のデータや要因が必要となるのではないかと。例：地元大学進学率、地元就職率、県外流出の要因、長崎流入の要因。</p> | <p>令和元年度に移動者動向調査結果の概要を実施しておりますので、その結果を掲載しました。 また、進学、就職に関するデータも追加しました。</p> | <p>移動者動向調査結果の概要、進学、就職等のデータを人口ビジョンに追加しました。</p> | |
| 23 | <p>若い世代という言葉で括らず、属性を分けることで、その属性に対してより具体的なアプローチや支援ができるのではないかと。</p> | <p>総合戦略における若い世代の年齢については、18歳から39歳までと定義していますが、若い世代の定住につながる人生の節目として「進学」、「就職」、「結婚」、「子育て」というライフステージごとに選ばれるまちを目指し、4つの目標を掲げて具体的な施策を展開していくこととしています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおりの、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |

第2期長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関するパブリックコメント

| No | 意見の内容 | 長崎市の考え方 | 意見を取り入れて修正した内容 | 意見を取り入れなかった理由 |
|----|--|--|----------------|---|
| 24 | <p>基本姿勢にシビックプライドの形成を持って来てほしい。p75にあるが、前面に持ってくる必要があると考える。ここでいう若い世代が世界や首都圏と比較し、長崎市を選択する可能性があるとするなら、長崎の持つ特徴、歴史文化自然もしくは郷土愛などの「長崎らしさ」ではないか。「子育て」や「起業」、「交流」、「流通」などは一定のレベルへ上げる必要はあるが、全国トップクラスになるには難しい。</p> | <p>長崎市民が長崎の日常の魅力を発信することで、長崎の魅力を自ら考えて、長崎のことをさらに好きになっていく「長崎〇〇LOVERS」の取組みや長崎の歴史を学ぶ機会や文化財に親しむ機会の充実などによって、ふるさと長崎を愛する心の醸成を図っていきたいと考えています。 なお、民間等においてもふるさと長崎を愛する心の醸成に資する取組みを進めていますので、産学官金労言士のオール長崎市で進めていきたいと考えています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |
| 25 | <p>今回のパブリックコメントへの提言になるが、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を掲げるのであれば、この計画を若い人読んでもらい、コメントを積極的に集める必要があるのではないかと考える。計画書と呼んだが全体でP90あり、文章も一般の人にとっては難しい。制作段階で分かりやすく説明し、意見を反映させた形にするのが望ましいのではないかと考える。</p> | <p>総合戦略の策定にあたっては、年間通して、大学ゼミ生から意見をいただくとともに、審議会委員として、大学生を委嘱し意見を聴取しています。</p> | | <p>「長崎市の考え方」の欄に記載しているとおおり、すでに記載している内容のご提案をいただいています。今後、総合戦略を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> |